

日野高校で郷土芸能を継ぐ 高校生たちの姿を視察



神楽の動きや活動について積極的に交流を深める

軽快にリズムを刻む太鼓に合わせ、勇壮に舞う高校生。学生は初めて見る神楽の動きに、息をのみ、ただただ見とれているばかりでした。

地域で愛されている日野高校郷土芸能部の活動にふれようと、7月31日の午前中、夏休みで練習中の日野高校黒坂施設を訪れました。

衣装を着ていないものの、高校生の荒神神楽を舞う姿は自信にあふれ、表情は真剣。学生は、その一挙手一投足を

目で追いかけて見とれました。郷土芸能部顧問の西村敦仁さんに日野高校で神楽を取り組むことになった経緯や活動の歴史、荒神神楽の物語、現在の活動状況などを聞くと、学生は興味津々の様子。西村さんから神楽の衣装を着けて練習する機会をいただくと、それぞれがスサノオノミコトや稲田姫、オロチの舞を高校生に指導してもらいました。

神楽の細かな所作や重い衣装に学生は驚きながらも、積極的に体験。決めポーズで神楽の醍醐味を味わったり、オロチの長い胴体を引きづり、息を切らし汗を流しました。

また、学生は高校生に「神楽を始めたきっかけ」や「舞の型」などを質問し、交流を深めました。高校生も大学生と交流する機会を生かそうと、積極的に話しかける姿が見られ、すっかり打ち解けた学生と高校生は互いに今後の活躍にエールを送り合いました。

さらに、黒坂鏡山城址を視察。石垣の上から見下ろす城下町黒坂の様子や風景に、風情を感じていた様子でした。

日野病院で高齢者を支える 地域医療を学ぶ



日野病院が取り組んでいる事業や課題など説明を受ける

高齢者をはじめ、多くの患者を抱える日野病院。中山間地で地域医療に奮闘する取り組みを視察しました。

まず、日野病院で講演会があり、島根県立大学教授の秦幸吉さんによる「笑いと健康」という話を聞きました。笑うとウイルスやがん細胞を退治する免疫機能が活性化するので、声を挙げて笑うこと、くよくよ悩まないなど、健康の秘訣を聞くことができました。

そして、日野病院事務局長の生田哲二さんから、医師・看護師不足、周辺人口の減少による患者数の減少など、抱える問題について説明を受けたほか、移動販売車とともに看護師が地域を回る「看護の宅配便」の取り組み、「外来インフォメーションシステム」で受診状況を待合に知らせるなど、常に利用する地域の皆さんに対するサービス向上に努めていることを聞き、学生らは感心しました。

また、相談員の山口浩一さんには、相談員が受ける相談内容について説明を受けました。退院後の生活や介護、遺産の問題など、老々介護や認知症患者の方、複数の相続人がかかわる相談内容があることを聞きながら、学生らはメモを取りました。そして、視察当日は黒坂診療所の診察日であり、移動して診療所も視察。診察後の担当医師から現状を聞きました。

病院の施設を見学したり、職員と触れ合ったりと、普段見ることのない病院の裏側を知ることができた研修になりました。



高田さん（中央）の話に学生は興味津々

「この町が好き」 Iターン青年と交流する

大きな梁が印象的な趣のある家で、生きること、物づくりに極めることなど夢を語り合う時間は夜遅くまで終わることはありませんでした。

日野町にIターンし、頑張っている若者と交流し、夢に向かって輝いている姿や思いを知ってもらおうと、下黒坂の高田昭徳さん宅で交流会を行いました。

高田さんは九州出身で、現在、農業に従事し一生懸命取り組む姿と飾らない人柄で、

地域でも人望が厚い存在。当日も「よく来た」と学生の訪問を大歓迎。地元の料理などを囲み、意見交換しました。

一緒に料理を行い、打ち解けた様子で、酒を酌み交わしながら時間が進むと学生らも積極的に質問するなど、熱気あふれる時間が続きました。

Iターンし、農業で自立しすっかり前を向いて未来を描く高田さんの話に、学生らは興味津々。仕事への「情熱」や「夢」を語るその言葉には説得力があり、耳を傾ける学生の表情は真剣。交流は夜遅くまで終わることはありませんでした。

また、高田さんと一緒にIターンし、農業に従事している田中正之さん（舟場）も訪れ、交流会に参加。家庭を持ち、充実した毎日を送っている田中さんにも、「町」や「農業」への思いなどを聞いたようでした。

東京では日ごろ味わうことのできない交流に、大きな刺激を心に受け、生きるたくましさを中心に刻んでいたようでした。

宝仏山登山に挑戦！豊かな自然、景色に心癒やされる



疲れも見えるが登り切った充実感に笑顔

夏の空高く、見上げればまぶしい日差し。厳しい暑さの中、町内最高峰の宝仏山（標高1005m）登山を行いました。

役場駐車場で登山の注意事項を確認し出発。足取り軽く、笑顔も見える学生の中には、聞いてみると登山初体験という人も。期待に胸弾ませながらの登山となりました。

宝仏山登山道は、スギやマツなどが植林された人工林の静けさ、ブナなど多くの種類

の木が見られる雑木林など、自然豊かで、手つかずの景観が楽しめ、また駅から近く交通の便も良いなど多くの登山客に好評。学生らも普段、経験することない自然の中での活動に、あちらこちらと顔を動かして自然の景観を楽しんでいた様子でした。

また、今回はホームステイを受け入れていただいた中菅の坪倉敏さんも同行。坪倉さんは樹木医の資格を持っておられ、珍しい木々や草花の説明のほか、枝打ちされていないなど人工林が抱える問題も話され、登山だけではなく、日本が抱える林業の問題についても学びました。

険しい道のりを登りおよそ3時間かけて頂上までたどり着きました。林を抜け開かれた頂上に抜けると、遠くは島根半島や雄大な大山が目に見え、学生らは「すごいきれい」「疲れが取れた」など充実した表情を見せました。

当日は島根半島先の日本海にうつすら隠岐が見えるなど絶好のコンディション。登った全員が豊かな自然に包まれ心癒やされた一日でした。